ろ、調査対象国すべての高齢者の過半数が「収入の伴う仕事をしたくない（辞めたい）」と回答している。その一方で収入を伴う仕事をしたい（続けたい）とする高齢者の割合は、日本が44.9％と最も多く、次いでアメリカ39.4％、スウェーデン36.6％、ドイツ22.7％と続いている。（図1－3－3）。

### （2）収入の伴う仕事をしたい主な理由は、日本とアメリカは「収入が欲しいから」、ドイツとスウェーデンは「仕事が面白いから」

収入を伴う仕事をしたい（続けたい）理由として、日本とアメリカは「収入が欲しいから」、ドイツとスウェーデンは「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」と回答する割合が多く、仕事に求めるものの違いが表れている（図1－3－4）。

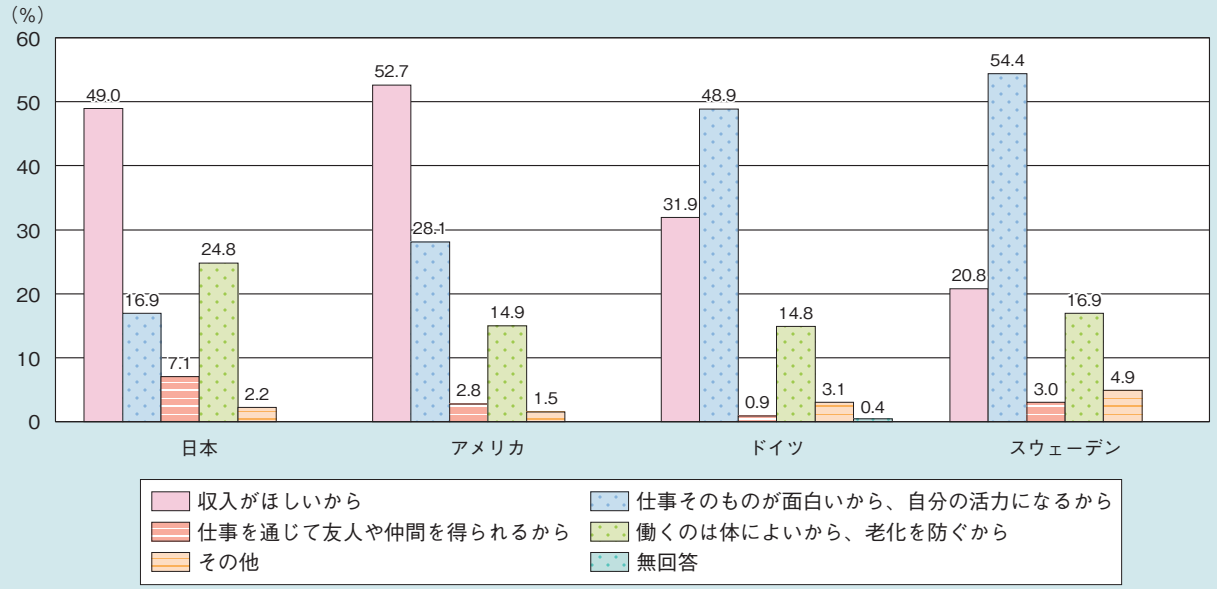
調査対象国すべての高齢者の半数以上が「収入を伴う仕事はしたくない」と回答するなか、日本の高齢者の44.9％は「収入の伴う仕事をしたい」と回答している。就労を希望する高齢者に対して、多様なニーズに対応した就業機会の提供を図る必要がある。

## 3 友人・知人との交流について

### （1）近所の人と「病気の時に助け合う」高齢者の割合は、日本が最も少ない

ふだん、近所の人とは、どのようなお付き合いをしているか尋ねたところ、日本、アメリカ、スウェーデンは「外でちょっと立ち話をする程度」、ドイツは「お茶や食事を一緒にする」と回答する割合が最も多い（図1－3－5）。「相談事があったとき、相談したり、相談されたりする」と回答する割合は、ドイツ48.3％、スウェーデン31.2％、アメリカ28.3％、日本18.6％となっており、また「病気の時に助け合う」と回答する割合は、ドイツ31.9％、アメリカ27.0％、スウェーデン16.9％、日本5.9％となっており、いずれも日本の割合が最も少な

図1－3－4　就労の継続を希望する理由




資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成27年）
（注）対象は60歳以上の男女（施設入所者は除く）

い。

### (2) 相談や互いに世話をする友人がいないと回答する割合は、日本が最も多い

家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人がいるか尋ねたところ、「いずれもいない」と回答した高齢者の割合は、調査対象国のなかで日本が25.9%と最も多く、次いでドイツ17.1%、アメリカ11.9%、スウェーデン8.9%と続いている（図1－3－6）。

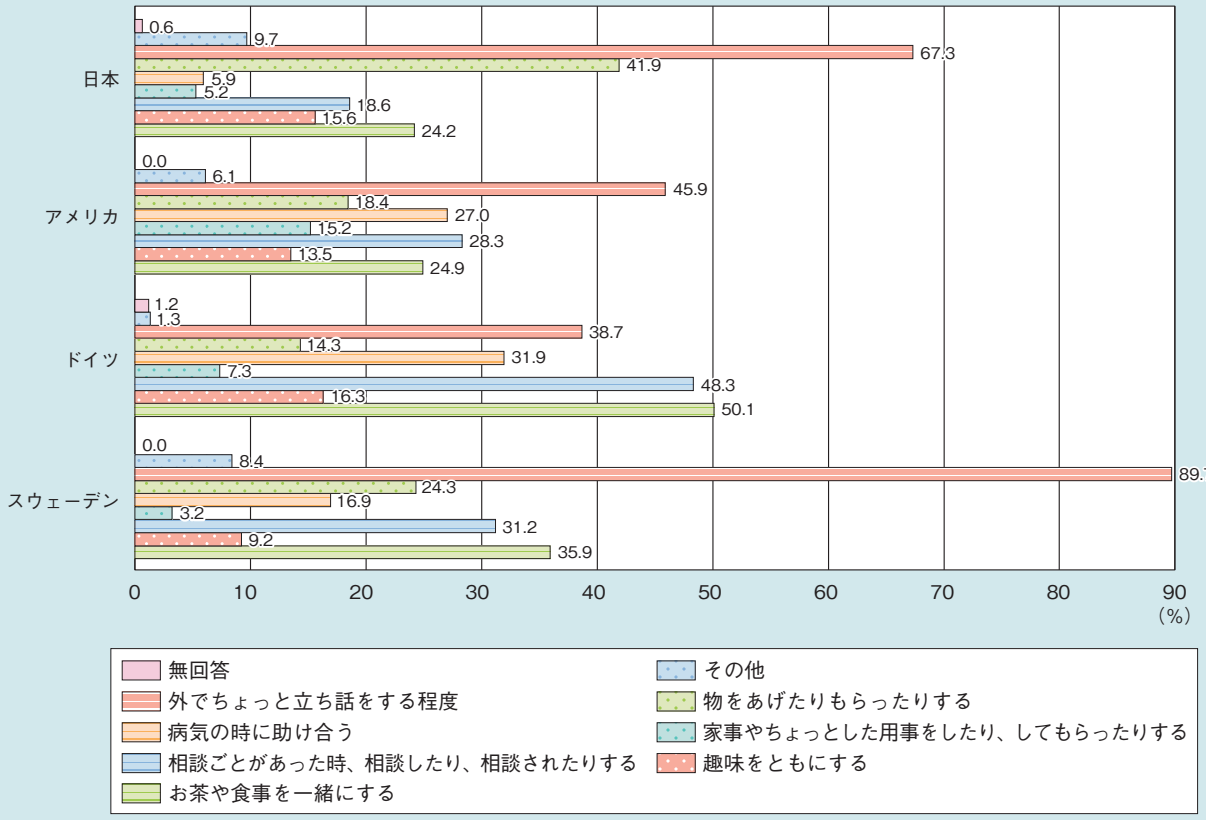
日本では高齢化が進み高齢者のいる世帯構成は単独世帯が増加傾向にあり、平成26（2014）年では約25%を占めている。こうした状況のなか、近所の人との付き合いについて、相談する・される、病気の時に助け合うと回答する割合が、調査対象国のなかで低い水準となっており、さらには家族以外の人で、相談や互いに世話をし合ったりする友人がいない割合は高い水準となっている。高齢者が地域社会から孤立しないよう、社会活動の参加を促す取組や支援が今後より求められる。

## 4 老後生活の満足度について

### (1) 日本の高齢者の77.5%は経済的に困っていない。

経済的な意味で、日々の暮らしに困ることがあるか尋ねたところ、経済的に困っていない高齢者の割合（「困っていない」と「あまり困っていない」の計）は、スウェーデンが87.3%で最も多く、日本77.5%、ドイツ77.0%、アメリ

図1－3－5　近所の人との付き合い方（複数回答）




資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成27年）
（注）対象は60歳以上の男女（施設入所者は除く）